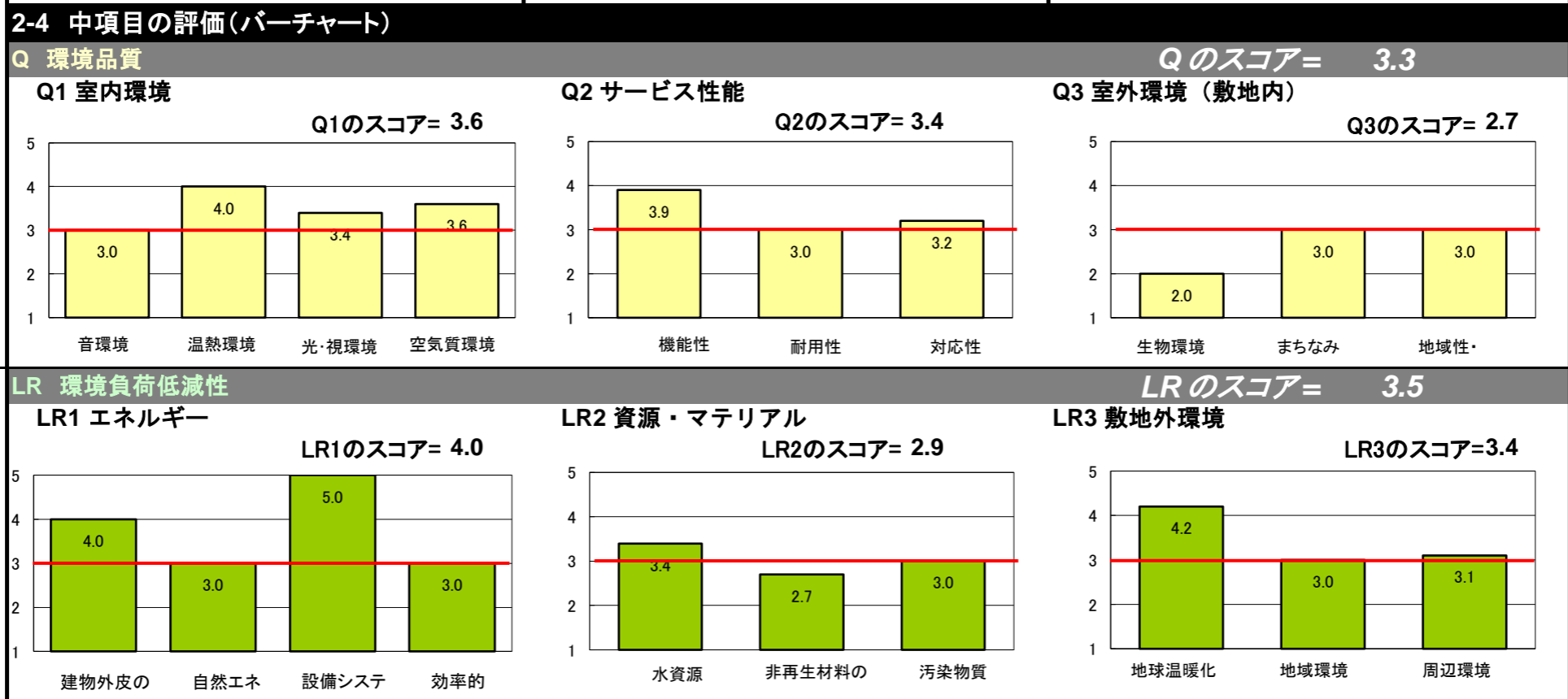
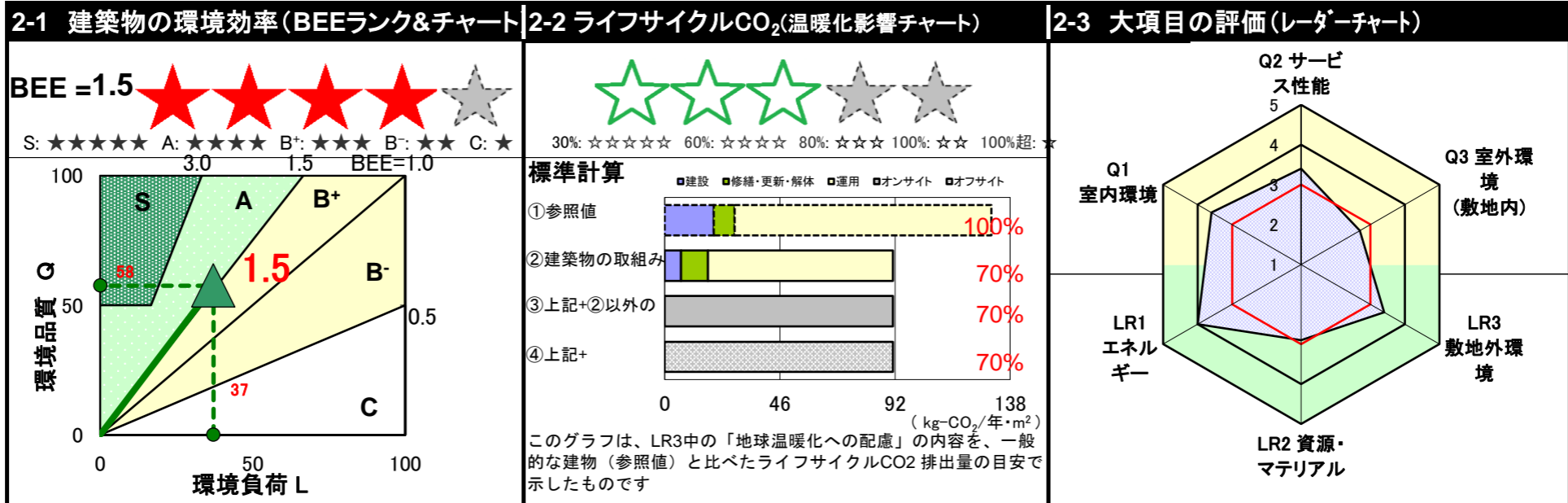
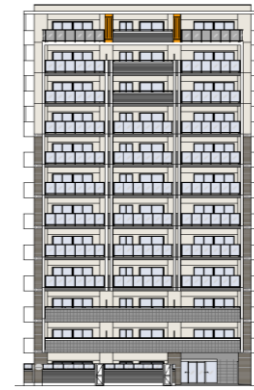


1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)リコット刈谷下重原町	階数	地上12F
建設地	愛知県刈谷市下重原町一丁目7-6	構造	RC造
用途地域	準工業地域	平均居住人員	140 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年12月 予定	評価の実施日	2020年6月16日
敷地面積	1,322 m <sup>2</sup>	作成者	平田 裕美
建築面積	339 m <sup>2</sup>	確認日	2020年6月16日
延床面積	2,859 m <sup>2</sup>	確認者	馬場 律也



3 重点項目		
<p>①地球温暖化への配慮</p> <p><b>4.2</b></p>	<p>③敷地内の緑化</p> <p><b>2.0</b></p> <p>外構緑化指数(外構緑化面積/外構面積)</p> <p><b>52.3 %</b></p> <p>建物緑化指数(建物緑化面積/建築面積)</p> <p><b>0.0 %</b></p>	
<p>②資源の有効活用</p> <p><b>2.8</b></p>	<p>④地域材の活用</p> <p><b>1.0</b></p> <p>&lt;外装材に使用した地域性のある材料&gt;</p> <p>なし</p> <p>&lt;建物の構造材・内装材、外構に使用した地域性のある素材&gt;</p> <p>なし</p>	

各重点項目は、以下の評価項目の得点により算出されています。

①地球温暖化への配慮

LR-3 1 地球温暖化への配慮

②資源の有効活用

Q-2 2 耐用性・信頼性、Q-2 3 対応性・更新性

LR-2 2 非再生性資源の使用量削減

③敷地内の緑化

Q-3 1 生物環境の保全と創出

$$\text{外構緑化指数} = \frac{\text{中高木の樹冠の水平投影面積} + \text{低木・地被等の植栽面積}}{\text{敷地面積から建物面積(建築面積及び附属物面積)を除いた}} \times 100$$

$$\text{建物緑化指数} = \frac{\text{屋上緑化面積} + \text{壁面緑化面積}}{\text{建築によって占有された部分の水平投影面積(法定面積)}} \times 100$$



スコアシート		実施設計段階		建物全体・共用部							住居・宿泊部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	独自基準 重点項目	環境配慮設計の概要記入欄			評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	評価点	評価点	重み 係数	全体	
		Q 建築物の環境品質													
Q1 室内環境														3.6	
1 音環境														3.0	
1.1 室内騒音レベル														3.0	
1.2 遮音														3.0	
1 開口部遮音性能														3.0	
2 界壁遮音性能														3.0	
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)														4.0	
4 界床遮音性能(重量衝撃源)														3.0	
1.3 吸音														-	
2 温熱環境														4.0	
2.1 室温制御														4.0	
1 室温														3.0	
2 外皮性能														4.0	
3 ゾーン別制御性														3.0	
2.2 湿度制御														3.0	
2.3 空調方式														3.0	
3 光・視環境														3.4	
3.1 昼光利用														3.0	
1 昼光率														3.0	
2 方位別開口														5.0	
3 昼光利用設備														3.0	
3.2 グレア対策														3.0	
1 昼光制御														2.0	
3.3 照度														3.0	
3.4 照明制御														3.0	
4 空気質環境														3.6	
4.1 発生源対策														4.0	
1 化学汚染物質														4.0	
4.2 換気														3.0	
1 換気量														3.0	
2 自然換気性能														3.0	
3 取り入れ外気への配慮														3.0	
4.3 運用管理														-	
1 CO <sub>2</sub> の監視														3.0	
2 喫煙の制御														3.0	
Q2 サービス性能														3.4	
1 機能性														3.9	
1.1 機能性・使いやすさ														3.0	
1 広さ・収納性														3.0	
2 高度情報通信設備対応														4.0	
3 バリアフリー計画														3.0	
1.2 心理性・快適性														3.0	
1 広さ感・景観(天井高)														3.0	
2 リフレッシュスペース														3.0	
3 内装計画														5.0	
1.3 維持管理														3.0	
1 維持管理に配慮した設計														3.0	
2 維持管理用機能の確保														3.0	
2 耐用性・信頼性														3.0	
2.1 耐震・免震・制震・制振														3.0	
1 耐震性(建物のこわれにくさ)														3.0	
2 免震・制震・制振性能														3.0	
2.2 部品・部材の耐用年数														3.5	
1 躯体材料の耐用年数														5.0	
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔														3.0	
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔														2.0	
4 空調換気ダクトの更新必要間隔														3.0	
5 空調・給排水配管の更新必要間隔														4.0	
6 主要設備機器の更新必要間隔														3.0	
2.4 信頼性														2.6	
1 空調・換気設備														3.0	
2 給排水・衛生設備														3.0	
3 電気設備														3.0	
4 機械・配管支持方法														3.0	
5 通信・情報設備														2.0	

3 対応性・更新性				0.2	3.0	0.29	3.3	3.3	1.00	3.2
3.1 空間のゆとり			②	階高2.91m	-	-	-	3.6	3.6	0.50
1	階高のゆとり	-			-	-	-	4.0	0.60	
2	空間の形状・自由さ	3.0			-	-	-	3.0	0.40	
3.2 荷重のゆとり					3.0	-	-	3.0	0.50	
3.3 設備の更新性					1.0	3.0	1.00	-	-	
1	空調配管の更新性	-			3.0	0.17	-	-	-	
2	給排水管の更新性	3.0			3.0	0.17	-	-	-	
3	電気配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-	
4	通信配線の更新性	3.0			3.0	0.11	-	-	-	
5	設備機器の更新性	3.0			3.0	0.22	-	-	-	
6	バックアップスペースの確保	3.0	3.0	0.22	-	-	-			
Q3 室外環境(敷地内)				-	0.30	-	-	-	2.7	
1 生物環境の保全と創出			独自③	-	2.0	0.30	-	-	2.0	
2 まちなみ・景観への配慮			独自④	-	3.0	0.40	-	-	3.0	
3 地域性・アメニティへの配慮				0.3	3.0	0.30	-	-	3.0	
3.1 地域性への配慮、快適性の向上			独自④	-	2.0	0.50	-	-	-	
3.2 敷地内温熱環境の向上				植栽による緑地の確保	-	4.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	-	3.5	
LR1 エネルギー					-	0.40	-	-	4.0	
1 建物外皮の熱負荷抑制				等級4	3.0	4.0	0.33	-	-	4.0
2 自然エネルギー利用					3.0	3.0	0.17	-	-	3.0
3 設備システムの高効率化				省エネ等級4	3.0	5.0	0.33	-	-	5.0
4 効率的運用					0.1	3.0	0.17	-	-	3.0
集合住宅以外の評価					-	-	-	-	-	
4.1 モニタリング					3.0	-	-	-	-	
4.2 運用管理体制					3.0	-	-	-	-	
集合住宅の評価					1.0	3.0	1.00	-	-	
4.1 モニタリング					-	3.0	0.50	-	-	
4.2 運用管理体制					-	3.0	0.50	-	-	
LR2 資源・マテリアル					-	0.30	-	-	2.9	
1 水資源保護					0.1	3.4	0.15	-	-	3.4
1.1 節水				節水型便器の採用	3.0	4.0	0.40	-	-	
1.2 雨水利用・雑排水等の利用					0.6	3.0	0.60	-	-	
1 雨水利用システム導入の有無					3.0	3.0	1.00	-	-	
2 雑排水等利用システム導入の有無					3.0	-	-	-	-	
2 非再生性資源の使用量削減					0.6	2.7	0.63	-	-	2.7
2.1 材料使用量の削減					-	3.0	0.07	-	-	
2.2 既存建築躯体等の継続使用					-	3.0	0.24	-	-	
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			②	-	-	3.0	0.20	-	-	
2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用			独自	-	-	3.0	1.0	0.20	-	
2.5 持続可能な森林から産出された木材					3.0	2.0	0.05	-	-	
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み			独自	仕上げ材の分別可能	3.0	4.0	0.24	-	-	
3 汚染物質含有材料の使用回避					0.2	3.0	0.22	-	-	3.0
3.1 有害物質を含まない材料の使用					3.0	3.0	0.32	-	-	
3.2 フロン・ハロンの回避					0.6	3.0	0.68	-	-	
1 消火剤					-	-	-	-	-	
2 発泡剤(断熱材等)					-	3.0	1.00	-	-	
3 冷媒					3.0	-	-	-	-	
LR3 敷地外環境					-	0.30	-	-	3.4	
1 地球温暖化への配慮			①	ライフサイクルCO2概算値:70%	-	4.2	0.33	-	-	4.2
2 地域環境への配慮					0.3	3.0	0.33	-	-	3.0
2.1 大気汚染防止					-	3.0	0.25	-	-	
2.2 温熱環境悪化の改善				建物の配置に配慮	-	3.0	0.50	-	-	
2.3 地域インフラへの負荷抑制					0.2	3.0	0.25	-	-	
1 雨水排水負荷低減			独自		-	3.0	0.25	-	-	
2 汚水処理負荷抑制					-	3.0	0.25	-	-	
3 交通負荷抑制			独自	適切な駐車台数の確保	-	4.0	0.25	-	-	
4 廃棄物処理負荷抑制					-	2.0	0.25	-	-	
3 周辺環境への配慮					0.3	3.1	0.33	-	-	3.1
3.1 騒音・振動・悪臭の防止					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 騒音			独自		-	3.0	1.00	-	-	
2 振動			独自		-	-	-	-	-	
3 悪臭					-	-	-	-	-	
3.2 風害、砂塵、日照障害の抑制					0.4	3.0	0.40	-	-	
1 風害の抑制					-	3.0	0.70	-	-	
2 砂塵の抑制					-	1.0	-	-	-	
3 日照障害の抑制					-	3.0	0.30	-	-	
3.3 光害の抑制					0.2	3.7	0.20	-	-	
1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策				広告物無し	-	4.0	0.70	-	-	
2 屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策					-	3.0	0.30	-	-	

重点項目(配慮項目)	評価点	全体に対する 重み係数	重点項目スコア
<b>① 地球温暖化対策</b>			<b>4.2</b>
LR3-1	地球温暖化への配慮	4.2	0.10
<b>② 資源の有効活用</b>			<b>2.8</b>
Q2-2	耐震性・信頼性	3.0	0.09
Q2-3	対応性・更新性	3.0	0.09
LR2-2	非再生性資源の使用量削減	2.7	0.19
<b>③ 敷地内の緑化</b>			<b>2.0</b>
Q3-1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09
			外構緑化:52.3%/建物緑化:0%
<b>④ 地域材の活用</b>			<b>1.0</b>
			(評価ポイント)
Q3-2 4)	地域性のある素材による良好な景観形成	0.0	-
Q3-3.1 I 2)	地域性のある材料の使用	0.0	-
			なし
			なし

■重点項目スコア算出式  
各重点項目スコアは、以下の方法により算出されています。

①地球温暖化への配慮、③敷地内緑化  
重点項目スコア=各配慮項目の評価点

②資源の有効活用 (評価点×全体に対する重み)の総和  
重点項目スコア= 重みの総和

④地域材の活用  
重点項目スコア=評価ポイントの合計+1

■ 環境設計の配慮事項

■ 建物名称 (仮称)リコット刈谷下重原

計画上の配慮事項	
総合	注) 設計における総合的なコンセプトを簡潔に記載してください。 計画地は、大通りから少し入った第一種住居地域にあり、北側に道路と水路、南側にある道路を前面道路とする。西側にアパートが隣接するため、プライバシー確保やマンションによる風害や日影に十分に配慮しながら、配置計画及び外観デザインを行いました。駐車場は狭い敷地を有効活用するため機械式とし、敷地東側に配置しました。
Q1 室内環境	注) 「Q1 室内環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 遮音サッシT1を採用して音環境に配慮し、省エネ4等級・空気環境3等級を確保し、明るく清潔な室内環境を目指した。
Q2 サービス性能	注) 「Q2 サービス性能」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 躯体劣化3等級など、建物の耐用年数の向上に努め、将来の生活環境変化やニーズに伴い柔軟に対応が出来、生活にゆとりを与えられるように努めた。
Q3 室外環境(敷地内)	注) 「Q3 室外環境(敷地内)」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 建物と道路境界との間に緑地や中低木を多く設け、エントランス廻りにはシンボルとなる高木を配し、生活環境に潤いを与えられるように努めた。
LR1 エネルギー	注) 「LR1 エネルギー」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 省エネ4等級の断熱仕様、エコジョーズ給湯器の採用、共用部位分の照明を一部LED照明を採用し、環境負荷の低減に努めた。
LR2 資源・マテリアル	注) 「LR2 資源・マテリアル」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 節水型便器を採用し水資源保護に努め、フロン・ハロンの不使用により、環境に配慮した。
LR3 敷地外環境	注) 「LR3 敷地外環境」に対する配慮事項を簡潔に記載してください。 周辺環境に対し、適切な建物離隔距離をとり、緑化や中高木を配置し、環境悪化の低減を図っている。
その他	注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。